

東北海区沿岸水温予報(2022年)

海域	経過 (6~8月)	現況(8月下旬? 9月中旬)	見通し (10~12月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	津軽暖流域の各層最高水温は6月は平年並みからやや高め、8月はかなり低めから平年並み。津軽暖流の尻屋崎東方への張り出しは6月はかなり東偏していたが、8月は平年並みとなった。	津軽暖流は昨年同様、渦を形成して東経143度に達した。親潮系冷水は沖合に向かって張り出している。表面水温は全体に低めの傾向。沿岸定地水温はやや低めから平年並みで、昨年と同様の傾向。	津軽暖流域の表層水温は平年並みからやや低めの傾向。津軽暖流の東方への張り出しは平年並み。	8月及び9月の対馬暖流域の最高水温は平年並みからやや低め。暖流の流量は狭い傾向が引き続き見られる。対馬暖流の勢力としては平年並みだった。この影響が津軽暖流域の10月まで続くとは判断した。	・六ヶ所から東通町沿岸で、刺網がさせないほどヒラツメガニが異常発生した。 ・7月、尻屋(東通町)でマグロの漁獲が多かった。 ・8月から9月初め、東通町沿岸で底建網が入れられないほど潮が早かった。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水試発表)	6月 表面は、概ね平年並~3程度高め。100m深は143°E以西では概ね平年並~3程度高め、143°E以东では平年並~5程度低め。 7月:表面は、本県沿岸、沖合の全域で概ね平年並。100m深は、県中部以南の沖合で4程度低め、他は平年並~3程度高め。 8月 表面は、概ね平年並~2程度高め。100m深は、県北部沖合20~50海里付近から沖合にかけては平年並~7程度低め、他の海域では、平年並~3程度高め。	表面は、県北部の沿岸から沖合にかけて、平年並~4程度高め。県南部は沿岸、沖合とも概ね平年並。 100m深では県中部以南の沿岸及び、県南部の沖合では1~5程度低め。県北部の沿岸から沖合にかけては平年並~7程度高め。	表面は平年並~やや高めに推移する。100m深では県北部では平年並~やや高め、県南部では平年並~やや低めに推移する。	12月までの気温は平年並に推移するとみられ、表面では現況の傾向がしばらく継続すると考えられること。県北部沿岸に沖合からの弱、暖水波及が見られること。県中部以南の沿岸には冷水域の影響が見られるが、解消傾向にあること。	
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水試発表)	6月:北中部沖合海域を中心に表面で平年より1~3、100m深で平年より1~2低め。 7月 表面は広く15~17台の水に覆われ、平年より2~3低め、100m深は142°E以东の中部沖合海域を中心に2~5台の親潮系冷水が広がり、この海域では平年より3~7低め。北部海域および沿岸海域は概ね平年並。 8月:表面は20~21台の水に広く覆われ、平年より2~3低め。100m深は5以下の親潮系冷水が142°~143°Eの海域に帯状に広がりこの海域では平年より3~9低め。	9月上旬の調査では、表面は広く21~22台の水に覆われほぼ平年並、100m深は5以下の親潮系冷水の勢力が弱まったが概ね平年より1~3低め。	表面は平年並に推移。100m深は平年よりやや低め~平年並に推移。	表面では、宮城県沿岸から県沿岸海域に平年並の水を供給している。100m深は平年より2~3低めのみが岩手県南部海域から宮城県沿岸まで広がっており(9月上旬)、南下流が観測された。	
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	6月:距岸50海里以内は広く南下流に覆われた。水温は平年並み。東経143°以东には黒潮系暖水が分布。 7月:沿岸は親潮系冷水に覆われ、平年より低め。特に、県中南部沖50海里付近では極めて低め。 8月:表面付近で昇温が進んだが、前月から大きな変化はみられず、沿岸は親潮系冷水に覆われた。	9月:冷水域の影響が弱まり、表面及び100m深では概ね平年並みとなったが、50m深ではやや低め~低めとなった。	距岸30海里以内の沿岸ではやや低め~平年並み。	三陸海域の下層には平年より低めの海況があり、今後南下することが見込まれる。しかしながら、親潮系冷水は北退し、黒潮系暖水が波及を強める時期であることから、本県沿岸への冷水波及は弱いと判断した。	(2002年7月以降)例年より沿岸の磯でマダコが多く確認されている。9月の底曳漁解禁後、マガレイが多く水揚げされている。7月中旬~8月下旬に、まき網によるマイワシ漁場が断続的ながら形成された。サバ類はほとんどみられていない。お盆月より始まったシラス漁が比較的安定。魚体がやや小振り、高気圧状態が続いている。
常磐南部 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	6月 沿岸域に親潮系冷水が差し込み、沖合域に黒潮系暖水が波及していた。7月 鹿島灘沖に黒潮系暖水が波及し、常磐海域には親潮系冷水が差し込んでいた。8月:沖合域(141°E以东)に親潮系冷水が差し込んでいた。	9月:沿岸域に親潮系冷水が差し込み、沖合域に黒潮系暖水が波及している。	10月は鹿島灘で「平年並~やや高め」、常磐南部では「平年並~やや低め」、11月以降は鹿島灘で「平年並~やや低め」、常磐南部では「平年並~やや高め」で推移する	房総沖の黒潮の離岸変動が10月までは接岸傾向、11月以降は離岸傾向と予測されている(中央水研)。黒潮が接岸傾向の場合、鹿島灘では暖水が波及するため高め傾向となり、常磐南部には親潮系冷水が差し込むため低め傾向となる。離岸傾向の場合、鹿島灘は低め傾向となり、常磐南部では沖合から暖水が波及するため高め傾向となる。	春シラス漁が不漁であった(4~7月 船曳網)。コチの水揚量が多い(7月~:建網)。沿岸のカツオ漁が不漁(9月~:竿釣・巻釣)。ヤナギダコの隠獲が多い(7~8月 バイ籠)。夏季としては規模の大きな冷水が常磐海域に分布した(8月)。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分 (出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部? 鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10?70海里			

極めて高い (2.5%)	+2.4 ?	+4.0 ?	+6.0 ?	+2.4 ?	+4.0 ?	+4.0 ?
高い (7.5%)	+1.6? +2.3	+2.5? +3.9	4.0? +5.9	+1.6? +2.3	+2.5? +3.9	+2.5? +3.9
やや高い (20%)	+0.7? +1.5	+1.0? +2.4	1.5? +3.9	+0.7? +1.5	+1.0? +2.4	+1.0? +2.4
平年並み (40%)	+0.6? -0.6	+0.9? -0.9	1.4? -1.4	+0.6? -0.6	+0.9? -0.9	+0.9? -0.9
やや低い (20%)	-0.7? -1.5	-1.0? -2.4	1.5? -3.9	-0.7? -1.5	-1.0? -2.4	-1.0? -2.4
低い (7.5%)	-1.6? -2.3	-2.5? -3.9	4.0? -5.9	-1.6? -2.3	-2.5? -3.9	-2.5? -3.9
極めて低い (2.5%)	-2.4 ?	-4.0 ?	-6.0 ?	-2.4 ?	-4.0 ?	-4.0 ?